

平成25年度 第4回 砂川市地域公共交通会議

日時：平成25年11月29日 午後2時から

場所：砂川市役所 大会議室

出席者：

区分	所属・役職	氏名	備考
会長 (1号委員)	砂川市 副市長	角丸 誠一	
副会長 (2号委員)	北海道運輸局札幌運輸支局 主席運輸企画専門官	工藤 正弘	
3号委員	北海道空知総合振興局 地域政策課長	池田 和明	
4号委員	北海道中央バス(株) 空知事業部業務係長	尾形 崇士	
	砂川北星ハイヤー(株) 常務取締役	天保 和雄	
6号委員	北海道地方交通運輸産業 労働組合協議会 副議長	阿部 敏彦	代理：杉浦 一秀
監事 (7号委員)	砂川市町内会連合会 副会長	高村 雄渾	
	砂川市社会福祉協議会 副会長	尾崎 隆男	
7号委員	砂川市老人クラブ連合会 会長	鈴木 日出男	
8号委員	砂川市 市民部長	高橋 豊	
	砂川市 建設部長	金田 芳一	
9号委員	北海道開発局札幌開発建設部 滝川道路事務所所長	山崎 達哉	代理：片岡 敏行
	北海道空知総合振興局 札幌建設管理部滝川出張所所長	渡辺 富雄	

欠席者：

区分	所属・役職	氏名	備考
4号委員	ふじ観光(株) 代表取締役	出村 省三	
	三星ハイヤー(株) 営業部長	梅野 恒夫	
5号委員	札幌地区バス協会 (社)北海道バス協会常務理事	今 武	
8号委員	砂川市 総務部長	湯浅 克己	
9号委員	北海道札幌方面砂川警察署 交通課長	山本 克己	

事務局：

区分	所属・役職	氏名
事務局長	砂川市政策調整課長	熊崎 一弘
事務局	砂川市政策調整課長補佐兼企画調整係長	畠山 秀樹
	砂川市政策調整課企画調整係主任	米谷 和敏
	砂川市政策調整課企画調整係主事	大友 健司

委託業者：

区分	所属・役職	氏名
コンサル	日本データサービス(株) 課長	源野 雄輔
	日本データサービス(株) 技師	斎藤 優太

1. 開会

事務局長

2. 挨拶

→ 会長より会議を代表しあいさつをした。

会 長： いよいよ雪が降る時期を迎えまして何かとご多忙なところを、本日も会議にご出席頂きまして、まことにありがとうございます。本日は第4回目の会議となります。去る9月には市内を南地区、北地区に二分して、南はコミュニティバス、北は予約運行型乗合タクシーの実証調査運行を行いました。さらには、住民ニーズ把握調査や既存バス利用者の乗降調査などを合わせて実施をしたところでもあります。9月に行った実証調査運行では、あまり利用者が多くない状況となっております。利用者が少なかった原因としては、実証調査運行の周知不足、あるいは高齢者において自分で運転されている方が多かったという実態がありました。実証調査運行については、年明け2月にも行う予定であります。冬場という問題もございますが、9月の実証調査運行で寄せられたニーズ、あるいは課題等、可能な限り反映させて参りたいと考えております。本日はこれまでの調査結果の報告、2月に予定している実証調査運行、また生活交通ネットワーク計画の策定に向けて、皆様のご意見を頂き、方向性を検討して参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

3. 報告事項

(1) 平成25年度地域公共交通確保維持改善事業補助金（調査事業）交付額の変更について

→ 事務局より議案に基づき説明した。

【質疑応答】

会 長： 当初ついた補助金が、増額したということでもあります。これは、協議事項の補正予算にも関係してくるということでしょうか。

事務局： はい、そうです。

(2) 公共交通の地域説明会の結果について

→ 事務局より議案別紙1に基づき説明した。

【質疑応答】

なし

4. 協議事項

(1) 平成25年度砂川市地域公共交通会議補正予算(案)について

→ 事務局より議案に基づき説明した。

【質疑応答】

なし

(2) 各種調査の結果について

→ 事務局およびコンサルより議案等に基づき説明した。

【質疑応答】

委員： 調査の結果を色々と報告頂きましたが、私も実証調査時に南地区の南ルート②に乗ってみました。利用者は私一人だけでした。その中で、西豊沼地区は、農家が多く、自家用車を有しているの、基本的にバスは乗らないのではないかと感じました。よくアンケート調査では高齢者や交通弱者は利用したいと回答するが、実際は乗らない方が多い。自家用車を持っていたり、家族に車を運転できる方がいる場合は、送迎もしてもらえるから乗る人が少ないと感じています。町内会でも要望を出している割に利用する人が少ないという声を聞きます。なぜ利用しないのかという質問に対しては、利用したい時間帯にバスが無いや本数が少ない、ルートが悪いといった声を聞きます。また、まちなかに行きたいのに、西豊沼にも行くため遠回りになるから、乗車時間が長くなってしまおうといった声もあります。これらを改善していくためには、需要が多い箇所を重点に回るといった運行方法を考えた方が良いのではないのでしょうか。また、家の前まで行くような運行形態も検討してはどうでしょうか。また、公民館等でアンケート調査を実施していますが、あの施設はバスやタクシーを利用しなければいけない人が行くような施設ではないと思います。

会長： 事務局の説明で実証調査の利用者は少なかったが、9割が65歳以上の方の利用であったとありました。今後、生活交通ネットワーク計画を策定していくにあたって、高齢者を対象とした運行計画を検討するのは重要なことだと捉えております。現在、砂川市の高齢化率は33%となっており、約6,100人が65歳以上の高齢者となります。状況としては、高齢者の自動車利用も高くなっております。この生活交通ネットワーク計画については、高齢者等の利用者にとって利便性が高い交通を構築する上で、既存の交通や交通空白地域の交通の改善という考え方が記載されると思います。今回の実証調査運行、あるいは住民ニーズを踏まえた中で、どのような計画策定を行っていくべきなのか、色々なご意見等頂ければと思います。

委員： 調査結果は理解致しました。ただ、実証調査運行をしているのが分かって利用しないというのは非常にひっかかります。皆さん車を持っています。まだ、70歳、80歳は運転ができるような状況となっております。しかし、地域によってはかなり高齢化率も高くなっており、そろそろ車を手放して、公共交通を利用したいというのが本音だと思います。

私の住んでいる地域は利用したい意向はあるが、問題点があり利用が抑えられています。その問題点とは、乗合タクシーを利用する際の予約等が煩雑であることだと思います。また、乗合タクシーは市街地内、どこでも乗り降りできるようにして欲しいです。この点を2月の実証調査運行で改善できないのでしょうか。商業施設等で乗降できるように改善すべきです。

会 長： 利用者が少ないと想定される地域においても運行を行ったところであり、路線バスが廃止になった地域においても運行をしています。議会でもそのような地域において、公共交通を導入できないのかと指摘を受けているところです。平成32年まで計画年次がある砂川市第6期総合計画では、そのような地域の足を確保すると掲げていることから、計画通りに検討を行っている次第です。平成32年の砂川市の高齢化率は推計ではありますが、41%、約7,000人が高齢者となることが予想されています。遅かれ早かれ、公共交通の整備を行なっていく必要があると考えています。事務局と致しましては、交通弱者や遠くまで移動するのが困難な高齢者も実際に存在していることから、生活交通ネットワーク計画を策定するところであります。しかし、計画を策定したとしても、必ず新たな公共交通を運行しなければならないわけではありません。仮に新たな公共交通を導入するにしても、色々な選択肢を持って検討を行いたいと考えております。また、この生活交通ネットワーク計画は3年計画であることから、毎年見直しをしていく流れとなっております。また、2月の実証調査運行については、地域の特性を考慮して運行形態を決定したいと思います。

委 員： この生活交通ネットワーク計画は、2月の実証調査運行をおこなってから策定するものなのか、2月の実証調査運行を待たずに策定するものなのか、どちらなのでしょう。

事務局： 9月に行なった実証調査運行の結果などを踏まえて、1月中にたたき台を提示したいと考えております。その後、頂いた意見や2月の実証調査運行結果を踏まえて、3月に生活交通ネットワーク計画の素案をご提示したいと考えております。

委 員： 実証調査運行なので、利用が抑えられていると思いますが、本格運行に至って運行していることが浸透していけば、利用率も自然と高まると思います。現状では実証調査運行ということで、そこまで利用率が伸びていないと思います。また、乗合タクシーについては、料金設定に問題があります。実証調査運行の段階では、仕方ないと感じておりますが、富平地区と焼山地区の利用者については同じ料金ではなく、もう少し差をつけても良いと思っております。富平地区の利用者にとっては、500円は安価で良いのですが、焼山地区の利用者にとっては、500円かかるのであれば、普通のタクシーを利用すると思います。そのことを考えると一律料金ではなく、もう少し差をつけても良いのではと思います。また、地域説明会に関してですが、地区の説明会ではなく、全住民に対して何かを配布するような形にしても良いのではないのでしょうか。

事務局： 頂いたご意見は、実証調査運行の結果を含め、計画を策定する中で、参考にしたいと思っております。

会 長： 計画を策定することで、強制的に運行しなくてはならないというのではなく、計画を策定しておき、将来、運行を検討するというものでも良いと思っております。また、仮に運行すると計画に記載した場合、来年度、国の補助事業を活用し運行することができるというものです。最終的には2月の実証調査運行の結果を踏まえて、運行の必要性を判断し

ていくこととなりますが、まずは計画素案のたたき台を1月を目途に作成していきたいと考えております。その後、2月の実証調査運行の結果を踏まえて、3月には計画素案を策定するというスケジュールでございます。

委員： 基本的には、運行するような方向性で進むと思いますが、現状の調査運行では利便性が低いと感じておりますので、実証調査運行を実施するのであれば、利便性が高く高齢者が利用しやすい運行形態が良いと思います。また、乗合タクシーについては、利用時間が決められており、利用者からすると利用しづらいものとなっています。もし利用者を増やしたいのであれば、利用時間を決めない等、利便性が高い公共交通を構築する必要があると思います。

会長： 今のご意見に関しては、2月実証調査運行の協議の際にお答えしたいと思います。ご指摘頂いた通り、砂川市の公共交通において、今回の調査結果から課題が浮き彫りになり、それらすべての課題解決は困難であると思いますが、できる限り課題を解決し、利用しやすい交通の確保はしていきたいと考えています。

(3) 実証調査運行の実施について

→ 事務局より議案に基づき説明した。

【質疑応答】

会長： 先ほど乗合タクシーの料金に差をつけた方が良いという意見と、高齢者にとってわかりづらい運行方法をどのように改善していくのかについて考える余地があると思います。

事務局： ご意見頂きました料金の関係ですが、確かに9月に行った説明会においても、同じようなご意見を頂戴しています。しかし、実証調査運行ということもありますので、事業者の初乗り運賃よりも安い500円で設定させて頂きました。また、500円という一律にすることで利用者にとってわかりやすいものと考えておりますことから、2月の実証調査運行時も同じ料金を考えています。しかし、本格運行を行う際には、地域ごとに料金を変えといった弾力化も考えています。また、運行方法のわかりづらさを改善するため、8月にも説明会を行いました。2月の実証調査運行についても、1月の説明会で調査運行の方法について、説明させて頂きたいと考えています。8月の説明会では、実証調査運行の説明以外にアンケートの内容やご協力の案内をさせて頂き、内容が定まらない説明会となったことから、1月に行う説明会では実証調査運行に絞った説明会を実施したいと考えています。

委員： 調査車両について、9月はバス車両を使用しておりましたが、今回はワゴン車両に変更となっています。2月の調査時期は冬期ということもあり、利用者が増加することが予想されます。仮に利用者が乗れないという事態が発生した場合には、どのような対応をするのかお聞かせください。また、運行時間について、休日の時刻はどのような意図で設定したのでしょうか。料金についても全区間200円とした設定根拠を教えてください。また、私が持つイメージとして、いつでもどこでも乗れるのがタクシーだと考えていますので、予約をし、決まった時間に乗るとするのは違和感があります。一人の予約でも運行するのであれば、利用時間を制限する必要はないのではないのでしょうか。

事務局： コミュニティバスの料金についてですが、路線バスとは違い交通空白地域への運行といったことから、対キロ制の運賃設定をする考えではないため、全区間 200 円としています。乗合タクシーの料金についてですが、今すぐお使いになりたい方は、タクシー事業者が運行するタクシーを利用して頂かないとタクシー事業者が困ります。私どもが運行する乗合タクシーは時間を設定した上で、乗合を行い安価でタクシーを利用できるというコンセプトなので、時間を設定させて頂いております。その結果、利用者が一人でも運行するだけであり、事務局としては 2 人、3 人といった乗合で利用して頂く形を想定しています。また、休日の便数ですが、他の自治体についても実証調査運行を行っており、その中では、休日は運行せず平日のみの運行というパターンもありました。砂川市において休日にも運行することを決めた根拠としては、平日のみではなく、休日においても市街地に出てきて買物や私用を行えるようにと考え、休日にも運行することを決めました。しかし、9 月の実証調査運行においては休日の利用者が少なかったこともあるので、運行しないという考えもありましたが、ある程度の需要は考えられるであろうということから、2 月の実証調査運行においても休日の運行を決定しました。また、時間設定については、休日は通院目的での利用は考えにくいことから、買物利用に重点をおいた時刻設定となっています。また、バス利用者が多く乗れない状況になった場合には、調査車両であるワゴン車に追加して、タクシー車両を配送する予定となっています。

会 長： 追加車両が運行した場合も、その利用者の運賃は 200 円でしょうか。

事務局： はい、そうです。

委 員： 北ルートに関して、おおよそ各地点に到着する時間を教えてください。帰りについても時刻を提示して頂きたいです。

事務局： 停留所に時刻表を掲示させて頂きます。

委 員： 個人に配布するものはないのでしょうか。

事務局： 実証調査運行チラシを配布致します。

委 員： 2 月は吹雪等、悪天候の運行が想定されますが、悪天候の場合、運休を考えていますか。

事務局： 原則、路線バスが運行する場合は運行することを考えていますが、今後運行事業者と協議を重ねていく中で、運行する天候について協議を行いたいと考えています。

会 長： 悪天候の場合、見通しが悪くなり、事故等が起りやすくなるので、道路管理者からのご意見もあると思います。道路管理者との協議は行っているのでしょうか。

事務局： 基本的には市道を運行するものであり、バス路線だから特別に除雪を行うというのは難しいと考えていますので、特別除雪を行うことは考えていません。

会 長： 悪天候でも利用者があることは想定できます。今後はどのような周知をするのかについて考えなければなりません。

5. その他

→ 事務局より次回協議会の日程について説明した。

事務局： その他ということでお知らせします。次回の会議の日程についてですが、1月下旬の開催を予定しております。また、会議では生活交通ネットワーク計画素案のたたき台の協議を考えています。会議の日程が決まりましたら、ご案内致しますのでよろしくお願い致します。

【質疑応答】

なし

6. 閉会

会長